

# 第9回 高速道路のあり方検討有識者委員会 議事概要

1. 日時 平成23年8月22日(月)10:00～11:45

## 2. 出席者委員

寺島実郎座長、家田仁委員、逢見直人委員、太田和博委員、門脇英晴委員、竹内健蔵委員、棕田哲史委員、森本淳之委員

## 3. 議事

- 1) ネットワークのあり方について
- 2) 今後の料金制度のあり方について
- 3) 東北地方の無料開放について
- 4) 意見交換

## 4. 議事概要

○ 事務局より、ネットワークのあり方の主な論点整理、これまでのネットワークの経緯と検証、災害面の再点検(案)について説明し、

- ・ 日本のネットワークの状況を国際比較の観点から見える形に整理すべきではないか。
- ・ 一定以上の速達性を確保するということが基本原則とすべきではないか。
- ・ 国際競争力の観点から、大都市圏等の渋滞解消、空港港湾との直結、車両の大型化への適応が重要ではないか。
- ・ 国際競争力、渋滞解消、災害対応など様々な視点があるが、財源とのバランスの中で、しっかりと優先順位付けを行い、国民に理解を求めていくことが必要ではないか。
- ・ 交通ネットワーク全体について検討すべきではないか。
- ・ IT化の進捗を踏まえ、ソフト面での高速道路の活用についても検討すべきではないか。
- ・ バブル以降の物流、人口構造、技術基盤などの変化について整理した上で、道路に対する新しい思想を出すべきではないか。
- ・ 縮み思考から脱却して、できるだけ人間の顔をした道路政策というものを総合交通体系の中で議論すべきではないか。
- ・ 14,000kmを新しい思想の下に見直していくというスタンスを明確にすべきではないか。

などについて意見交換がなされた。

○ 事務局より、今後の料金制度のあり方の主な論点整理について説明し、

- ・ 料金制度とネットワーク整備は併せて整備すべきではないか。
- ・ 高速道路の料金制度は、産業の最適な配置などにも影響があり、安定的なものとするべきではないか。
- ・ 物流、人流コストを下げ、交流を促進し産業活動を活性化することは、国交省の本来目的であり、長期的に料金を下げていくことを目指すべきではないか。
- ・ 無料化や割引を行った結果、渋滞することなく、一般道の渋滞が解消されたところについては、継続することも考えるべきではないか。
- ・ シャドウプライスという考え方で、償還制度は維持しながら高速道路が果たすべき役割を見直すという考え方もあるのではないか。
- ・ 料金の引下げは、効率化やコストを下げたということが産業界では普通であり、税を使って料金を下げていくということは問題ではないか。45年の負担とも密接に関わるのではないか。
- ・ 今の償還制度は、初期投資として造ることを最大の念頭に置いた時代に作られた制度であるが、システムというものは進化するものであり、維持更新や改良に係るコストはしかるべきものになるということを念頭に、初期投資が償還できたらタダにするという考え方は変えるべきではないか。
- ・ 応分の受益者負担ということは原則であるが、かかったコストをそこを通った人だけが払うということを過度に考える時代ではないのではないか。また、会社間の連続性にも十分配慮すべきではないか。
- ・ 災害国であることを踏まえ、多重性の確保など原資を確保していく必要があり、初期の一時投資が終われば償還というものではないのではないか。
- ・ 一般道路と高速道路、他の交通機関とのバランスも考えながら、システム全体をコントロールする手段として料金を使うべきではないか。
- ・ 一定程度民間事業者のマーケティング手法としての料金も認めていく必要があるのではないか。
- ・ 速達性や時間の信頼性が担保されているのが高速道路であり、それを損なうような料金制度にしてはならないことを原則とするべきではないか。
- ・ 交通需要管理の観点から都市によってはロードプライシングを行う必要があるのではないか。
- ・ 長期的な視点として、環境やエネルギーなどの政策が視界に入れている2030年を目指し、この国の交通体系を強靱なものにしていくという目標の中で料金体系について議論すべきではないか。
- ・ その中で、公平性や対距離料金を基本とする考え方等を軸としつつ、明確な形で正当な負担を仰ぐという考え方を明らかにすべきではないか。

などについて意見交換がなされた。

○ 事務局より、東北地方の高速道路の無料開放について説明し、

- ・ 被災者支援について、被災者の認定の仕組みが地域によって一定でないことについて、考え直す必要があるのではないか
- ・ トラックのUターン問題について、不正とは言えないまでも被災地の復興と関係のない車両が無料になっている現状を技術的に克服できるのかなどについて意見交換がなされた。